

お知らせ

東通原子力発電所1・2号機新設に係る 環境監視調査結果（2019年度）について

東京電力ホールディングス㈱では、2007年度より建設工事中の環境監視調査を行っています。なお、福島第一原子力発電所で発生した原子力災害の収束に向けた取り組みを最優先する観点から、東通原子力発電所の本格工事を当面見合わせる事となり、資材の搬出入、建設機器の稼働が著しく少ないことから、2011年度以降「大気質」「騒音」「振動」の環境監視の頻度を見直しております。

2019年度の調査の結果として「大気質」「振動」「水質」につきましては、環境基準・管理目標を満足しておりました。

また、東通村小田野沢地区（住居地域）において、夜間の環境騒音が環境基準値をわずかに超えていましたが、夜間を通して連続的に聞こえていた虫の鳴き声、波の音が影響したものと思われまます。

なお、この地域は「環境基本法」に基づく騒音に係る環境基準の類型に指定されていない地域です。

「地形及び地質」「陸域に生育する植物」「海域に生育、生息する動植物」につきましては2007年度～2018年度と比較した結果、大きな変化はありませんでした。

以上の結果より、発電所建設工事が周辺環境に与える影響は現時点では小さいものと評価いたしました。

調査結果の詳細につきましては、「東通原子力発電所1・2号機新設に係る環境監視調査結果報告書（2019年度）」として、トントウビレッジ内の原子力情報コーナーにて閲覧が可能です。